

東大阪翔の会

にとつて重要であると認識している。オーガニック食材についても、他市の採用事例を参考にしながら、導入可能か調査をしていく。

不登校児童生徒等サポート事業について

問 先日、不登校児童をお持ちの保護者の方を含む、子育て中の方々と教育委員会を交えた話し合いの場を設け、不登校児童を助けたい

との強い思いから、トキヨーコーヒーと連携を取り、学校とも協力体制の構築をお願いした。トキヨーコーヒーとは、主に不登校の子供を持つ保護者の集まりで、全国で同時多発的にア

クシヨンを起こし、日本の教育を変えることが目的である。学校に行けない、行かないと決めた子供たちの多様性を均質化するシステムこそが不登校に対応できない原因であり、現在の教

育のアップデートも必要だと考えられる。だからといって、学校に行かないことを推奨しているわけではない、全ての子供たちが安心してわくわくして学校に行けることが目的でもある。

今後は多様な観点からサポートできる体制づくりが必要と考えるが、見解を問う。教育次長 教育委員会として、不登校児童生徒に多様な観点からサポートできる体制づくりにも今後努める。

自由民主党

代表質問 岡 修一郎

個人質問 横田 信一

子育て世帯への負担軽減策として学校給食費無償化を求める!! 近鉄大阪線の早期高架化を!!

給食費の無償化

問 新型コロナ対策や物価高騰対策での期限付の給食費無償化は実施されているが、無期限の恒常的な給食無償化を実施するに至っていない。現行の給食費の総額から就学援助と生活保護世帯を差し引いた額において、本市において無償化したと仮定すると、小学校で7億6千万円、中学校で4億2千万円の計11億8千万円が追加が必要になると推定されている。千葉県では、公立小中学校において、第3子について無償化を行う予算を計上し、市町村と折半にて実施することを進めている。同じく千葉県の市

川市では、来年度から完全無償化を決め、17億7千万円を計上すると発表した。

大きい予算が必要となるので、慎重な検討が必要となるが、子育てしやすいまちづくりの観点からも、多子世帯に対し無償化する、または給食費の一部を補助し、値下げを実施するなど、何かしらの方策を模索するべきであると考えますが、当局の考えを寄せ。

学校教育部長 全ての無償化は、現時点では困難であるが、他市での事例が様々ある中で、保護者への経済的負担の軽減方法など、どのような施策が効果的なのか、今後検討する。

近鉄大阪線の高架化

問 平成26年第3回定例会の自由民主党議員団代表質問にて、近鉄奈良線完全高架化を受け、次は近鉄大阪線の高架化を決断するよう

近鉄大阪線長瀬駅前の踏切



市長に求めた。近鉄大阪線の本市部分の環境は劣悪で、交差する都市計画道路2路線、交差する道路9か所、踏切も9か所に及び、踏切の1日当たりの通行量は、

自動車の約1万2千台、歩行者と自転車は約4万人に及び、近鉄大阪線は上本町から奈良県中部、伊勢志摩、そして名古屋まで接続する超過密路線である。特に朝夕のラッシュ時の鉄道通過数は膨大で、一度踏切が閉まると何十分も閉まったままで、本市南西部地域の東西分断の大きな原因となっている。近鉄大阪線の連続

立体交差の早期事業化を求めるが、考えを寄せ。

副技監 令和3年度から庁内検討会を組織し、検討に着手するとともに、国、府に向けて制度の改正など、事業化へのハードルを下げる要望を実施している。実現に向けて鋭意取り組む。

埋蔵文化財センターと文化複合施設

舞い上がる観光施策

問 課題となっている郷土博物館と埋蔵文化財センターについて、市は本年7月、突如この両施設の休館を決定された。両施設の廃止は、文化複合施設への合移設によりなされるのが前提である。文化複合施設は、令和2年度に11億8千8百万円の予算が令和5年度完成に向けて可決、成立し、多くの市民の希望が叶った。しかしながら令和2年第3回定例会において、新型コロナウィルス感染症による財源不足懸念を理由に、突如予算を凍結した。郷土博物館、埋蔵文化財センターと文化複合施設に関しての方針を早急に寄せ。

問 この秋から放送のNHK連続テレビ小説「舞いあがれ!」は、東大阪が舞台であり、千載一遇のチャンスを見逃すことがないよう、舞い上がる上を向いた観光施策を熱望をしている。私の地元でもある石切地域をはじめとした生駒山山麓から眺める大阪平野の景色は、全国に誇れるものであるが、「舞いあがれ!」を機に、これまで以上に大々的にPRすべきと考えている。石切神社、石切参道商店街や枚岡公園、枚岡神社、瓢箪山の商店街など、この地域には訪問客の受皿も整っている。観光施策としてさらに力を入れてもらいたいと考えているが、どうか。

市長 令和5年4月1日より施行される博物館法の一部改正の趣旨に沿った役割や機能を盛り込み、市民の皆様の御期待に応えられる新たな文化財の拠点施設を目指し、整備を進めていく。

郷土博物館

都市魅力産業スポーツ部長 石切剣箭神社などを中心とした生駒山山麓エリアは、観光客受入れのキャパシティも整っていることから、今後も様々な仕掛けを行う。